

新屋、福島農協が合併 6月1日から新発足

新屋、福島農協が合併し、6月1日から新発足しました。

これは、旧福島町が分町合併し、福島農協の運営が極度に困難になつたためです。こうしたことから、最近農協離脱者もでて、現状維持か合併かこんどんとして、一度は新屋農協へ合併することを決めながらなかなか話が進まず、新屋側からの異議もでて、今後のなりゆきが危ぶまれていました。

そこへ斎藤町長、森平農業委員会長、松井小幡農業協同組合長

が就任、農家に不便のない運営がなされることになります。なお、新農協発足当時の組合員数は八百二十人で、預貯金総額は四千三百万円となつており、その話では、六月末には六千万円を越え、郡内最右翼とのことです。今後の発展に期待します。

润滑油の潤さん

新屋農協長

黒沢潤次郎

町長さんははじめ皆さんの中でも、今後はよりゆきが危ぶまれています。そこで斎藤町長、森平農業委員会長、松井小幡農業協同組合長が決意を述べました。

黒沢潤次郎によると、新屋農協が合併したことには喜ばしく、今までの農政に大きなプラスになりました。新屋、福島農協の合併ができたことは「和」によつてうまく、おさまります。農協の協約の中には「和」と一体を表わして、和らく潤滑油の潤さんとして、和のため、油さしに専念する決意です。組合員の理解ある協力をお願いします。

町長さんは、「和」によつてうまく、おさまります。農協の協約の中には、「和」と一体を表わして、和らく潤滑油の潤さんとして、和のため、油さしに専念する決意です。組合員の理解ある協力をお願いします。

農協一本化が理想

町長 斎藤 八郎

福島農協が合併し、6月1日から新機関をもつた大農協として発足することです。

理想は、甘楽町内四つの農協が合併し、農民組織の強化を図ることですが、地域環境を異にしたことです。まことに喜ばしいことです。

福島農協がする経済団体だけに、むずかしい点もあります。しかし、近い将来を目途に話し合いをもち、推進する考えで、新屋、福島の合併は、その第一段階とみるべきです。今後、一體性による経済発展を図るため、役員、職員を中心、両者相互の協力をお願ひします。

写真は農村振興会の発会式

睡眠と食事

日がながくなるにつれ、家事に精出すあまり、過労になりがちです。これを防ぐ一番簡単な方法、睡眠をとることです。

睡眠をとることです。

睡眠をとることです。